

令和3年度 日臨技中部圏支部医学検査学会の開催にあたって



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
代表理事 会長 宮島 喜文

本学会が、一般社団法人富山県臨床検査技師会の南部 重一会長の下で、メインテーマ「[harmony]～次世代へ進む検査 繋がる検査～」として開催されますことを会員の皆様とともにお慶び申し上げます。

また、平素より一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技と略す）の活動に、ご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年からの新型コロナウイルス感染症に見舞われている中での支部学会の開催となりました。本来、支部学会には多くの会員・関係者が集い、活発に最新の研究成果の発表や討議を対面で交わし、交流会で親睦を深めることにも意義があるのですが、感染拡大防止の観点から社会活動が制限される中、Web形式を軸として開催されることになりました。厳しい環境下の中での学会企画・運勢に関して、担当県技師会を始め、関係者の皆様のご労苦に深く感謝申し上げます。

さて、我が国は人口減少・高齢化という難題に立ち向かうため、全世代型社会保障制度の構築に向け、働き方改革・人づくり革命・生産性革命や質の高く効率的な保健・医療・介護の提供等の政策展開を進めていました。

そこに、新型コロナウイルス感染症が発生し、我が国においても全国的な蔓延となり政府も感染収束に向けて総力を挙げて取り組んでいます。会員の皆様には感染症の診断根拠となる検体採取・PCR検査、更にはワクチン接種の担い手として重要な役割を担っていただいております。

今年5月には医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアについても臨床検査技師等に関する法改正が行われ、大幅な業務範囲の拡大が図れました。そして、既資格者の研修も開始されるとともに、臨床現場での実践にも着手しなければなりません。

臨床検査を取り巻く環境変化の中、本学会は担当県実行委員会の時勢に即した特色ある企画と円滑な運営で進められ、更に日臨技が学術・職能団体として抱えている重要な課題について、会員の皆様への情報提供と研究成果を発表する身近な学会として期待されています。

本学会の盛会を祈念するとともに、運営するにあたりご尽力をいただきました南部 重一学会長、澤井 真史実行委員長をはじめ、富山県臨床検査技師会の皆様に心より感謝申し上げます。

令和3年8月5日